

DATA
あまみユースホステル

〒894-0047 鹿児島県奄美市名瀬大字知名瀬2380
電話：0997-54-8969　URL: http://www.jyh.or.jp/info.php?jyhno=8718

奄美空港から車で1時間程度の名瀬というエリアにあるユースホステル。近くには日本有数の美しい夕陽が見られる場所として有名な奄美市大浜海浜公園がある。また、天然の亜熱帯広葉樹が多数残っている近作原(きんさくばる)原生林の入り口でもあるため、ここを拠点にして奄美大島を満喫する人も多い。

Youth Hostel
Pick Up
あまみ
ユースホステル

手付かずの自然が身近なユースホステルは、
懐かしさを感じられるところだった

素の自分に戻ることができる場所



©一般社団法人 あまみ大島観光物産連盟



世界自然遺産に登録された絶景の宝庫奄美大島

鹿児島本土と沖縄本島のほぼ中間に位置する奄美大島は、「冬温かく、夏は暑すぎない」といわれるほど一年を通して過ごしやすい島だ。アクセスは飛行機かフェリー。そのどちらで赴いても“奄美ブルー”と呼ばれる海に、旅人は到着前から圧倒される。珊瑚の欠片で出来た白い砂浜から紺碧へと移ろう滑らかなグラデーションは、“絶景”という言葉も物足りなく感じるほど美しい。島には手付かずの自然が残り、稀有な環境で育まれる多様な生態系は、2021年に徳之島・沖縄本島北部・西表島と共に世界自然遺産に登録された。世界三大織物に数えられる大島紬やシマ唄といった伝統文化と、そこに暮らす温かい人々もまたこの島の魅力を深いものにしてくれる。海、山、人、全てに魅力が詰まった奄美大島に、今回訪れる「あまみユースホステル」はある。

賑やかな市街地から車で20分。「東京と比べるとだいぶ暖かいでしょう」。そう言いながら笑顔で出迎えてくれたのは、あまみユースホステルのマネージャー、稲和代さん。御年80歳ながらいまだ現役のマネージャーは、世界中から訪れるゲストみんなの“あんま（奄美の方言で祖母や母を意味する）”だ。波の音を聞きながらの稲さんとのおしゃべりは、カチカチと刻まれる都会用の体内時計を南国のゆったりしたものにしてくれる。「ユースホステルの仕事は、やりがいがあって楽しいんです」。ユースホステルのマネージャーになって18年。穏やかな語り口からは想像しづらいが、稲さんは60歳を過ぎてからユースホステルの世界に飛び込んだ行動力のあふれる人だ。

旅が好きだったからユースホステルをやりたかった

「旅は、私の人生で外せないというか、最も必要な要素の1つなんです。何か人生で迷ったり、悩んだりした時には旅に出るんです。旅に出て、そこで暮らす人の生活を見たり、景色を見ると自分の考えが変わったり、元の自分に戻れたりする。私は何回も旅に救われて来ました。だから特に若い旅人をサポートできるユースホステルを昔から運営したかったの」。そう語る稲さんの人生は順風満帆ではなかった。奄美大島で生まれ育ち、2人の子どもを出産後、離婚を経験。お母さんの助けを借りながら育児に奔走した。忙しい日々の中で心の支えになったのが旅だった。「一番印象に残っているのは、テレビ番組で特集されていた福島県桧枝岐村(ひのえまたむら)への旅でした。自然が豊かなところで平家の落人伝説があったり、昔からの伝統的な歌舞伎が残っていたり、私の生まれ育った奄美大島と共通点が多かったんです。その番組の中で、一度村を離れた若者が桧枝岐村に戻って民宿を営む様子が取り上げられていて、その民宿にどうしても行ってみたくなったんです」。番組を見た翌日には当時勤めていた会社に休暇をもらい、週末には福島へ旅立った。実際に訪れた桧枝岐村の民宿は、稲さんの想像以上だったという。「そこで働いている人たちが輝いて見えて、活力が湧いてくるような経験でした。その時、『私もこんな宿泊施設をやってみたい。若い旅人が元気になる場所を作りたい！』と強く思ったんです」。

PROFILE

稲 和代

奄美大島出身　奄美大島の薬品会社を勤め上げ退職後、62歳からユースホステルの運営に携わる。ゲストに対するフレンドリーな接客が評判を呼び、国内外から稲さんを慕い多くのゲストが訪れる。





©一般社団法人 あまみ大島観光物産連盟



©一般社団法人 あまみ大島観光物産連盟







1. あまみユースホステルの客室は2つ。2段ベットがあり、最大9名までの利用に対応している。 2. リビングは8人が座れる長机と、3人がけの円卓がある。大きい窓があり部屋全体は温かい雰囲気で包まれる。 3. 浴室も清潔感があり旅の疲れを癒してくれる。

60歳を超えてから始めたユースホステル

ユースホステルの開業を決意したものの、当時の稲さんには土地も施設もなかった。「それでも諦められないので、まずは資金を貯めるために、会社に了解をもらって週末に加計呂麻島で民宿を始めたんです。平日は奄美大島の会社で経理事務の仕事をして、金曜日の午後から加計呂麻島に行って、買い出しをして、ゲストを迎えて、料理、掃除、全てを1人でやりました。大変でしたけど、そんな生活を5年続けて、『やっぱり自分の進む道はユースホステルなんだ』と確信が持てました」。当時働いていた会社を退職後も民宿をさらに5年続け、現在の場所で「あまみユースホステル」を開業させた時、稲さんは62歳になっていた。

今年18年を迎えるあまみユースホステルは、リピーターが多いユースホステルとしても知られている。それは稲さんの人柄に寄るものだろう。「小さい宿なので大きく儲かるというものでもありませんが、それ以上にやりがいと素晴らしい出会いが多いんです。80歳を迎えましたが、ゲストから新しい情報をいっぱいもらえる。『運営大変でしょう?』って言われることもありますけど、大変だって思ったことは1回もありません。毎日が楽しくて仕方がありません(笑)」。



「思い出ノート」には宿泊したゲストの温かい言葉が綴られている

ユースホステルを営む中で印象に残ったゲストの話を聞くと、あるフランス人男性の話をしてくれた。「彼はフランスから英語で宿泊予約のFAXをしてくれたんです。私は英語ができないんだけど、いつ、何人で泊まりたいか、くらいは分かって、その日空いてたから『OK』と書いたFAXを返信したんです。そしたらきちんと宿泊しに来てくれました。滞在中、その方との会話は英語になるので、私は理解できないんだけど、不思議と彼が言いたいことは分かったの。英語が全然分からないのに、言いたいことは伝わる。ほんと不思議よね。彼はここが気に入ってくれたのかその後もここに何度も泊まりに来てくれました。本当に伝えたいことって、言葉が分からなくても、言葉がなくてもきっと分かるんだと思います」。

自分をリセットしたい、悩んだ時の旅にふさわしい場所

「もっと若い方に旅をしてほしいんです。旅をすることで自分を見直せるし、新しい自分も発見できる」。そう思った稲さんが企画したのが、4~18歳までが利用できる「1泊3,000円 2食付きプラン」だった。「利益は出ないけど、これをきっかけに若い方が旅をしてくれればと思って企画しました。おかげさまでたくさんの若い方に利用してもらっています。これからは、グループの方向けの貸切りプランなどの企画も考えています。あまみユースホステルは、2部屋で、宿泊できる最大人数が9名という小さなユースホステルなので、色々な使い方/楽しみ方を提案していきたいと思っています。思い切った企画ができるのも小さいユースホステルならではですよね」。

奄美大島の魅力を伺うと、“人の強さ”と稲さんは答えてくれた。「奄美は、歴史に翻弄されて苦しい時もありました。でもどんな時でも、夜になれば浜辺に皆で行って"八月踊り"を踊って、翌日また頑張るという強い精神を育んで来ました。だから今もみんな強い芯を持っているんです」。集落の繁栄と五穀豊穣を祈る八月踊りは、鹿児島から沖縄に伝わる伝統行事で、地域ごとに特色をもった踊りは実に数十種類あると言われている。ゲストのコミュニケーションにも、この八月踊りは役立っている。「足をふみ鳴らす簡単な踊りもあるので、誰でもできるんです。八月踊りをしながらゲストの方達と話をするのは本当に楽しいですよね。あと奄美出身の人って全国にいて、何かあったら太鼓を叩きながら八月踊りをするんです。ここに泊まったゲストがどこかでこの太鼓を聞いた時に、奄美を思い出してくれたら嬉しいですね」。

開業から18年。稲さんにあまみユースホステルの“これから”を伺うと、「ここに関わる人みんなが毎日を幸せに過ごせれば、それでいいんです。そうなるためには、その時その時考えたことをすぐやるようにするのが大切だと思っています。情熱は時間が経つと少しずつ熱を失っていってしまうから」。

あまみユースホステルに宿泊したゲストの多くが「おばあちゃんの家に来たみたい」と口にする。実際に稲さんと話すとその感覚が分かった。旅をしているのに、帰ってきたような雰囲気に感じるのは、ここが素の自分になれる場所だからなのかもしれない。

MAP A 日本酒と肴 みや川



奄美大島の食材をふんだんに使用した創作料理が楽しめる居酒屋。昼間にはかき氷も提供しており、よもぎを使った島の郷土料理"かしゃ餅"をイメージした「かしゃ餅氷」は、ここでしか食べられない絶品スイーツ。

鹿児島県奄美市名瀬
伊津部町10-13 迫田ビル1F
TEL:0997-58-8537



MAP B 鯨石庵



奄美大島の郷土料理を楽しむならここ。奄美大島産の本マグロを1本買いしていることもあり、常に新鮮で本格的な海鮮丼が楽しめる。赤身が中心の奄美本鮪海鮮丼は、しっかりした食感と赤身の濃厚な旨味を堪能できる。

鹿児島県奄美市名瀬
港町2-10奄美観光ホテル内
TEL:0997-52-2221



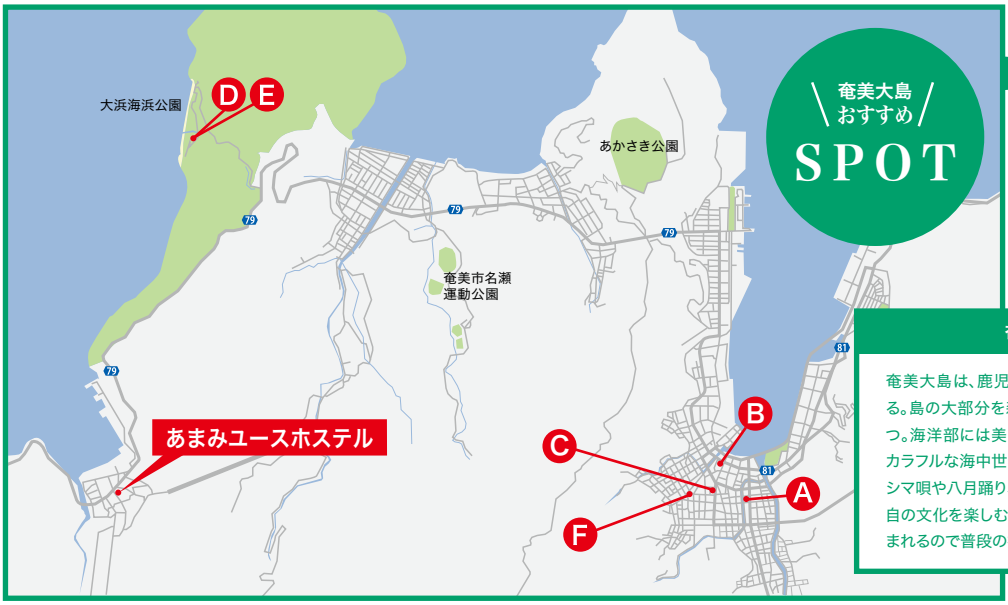
MAP C サンドイッチカフェ あまみ



旬のフルーツを使用したフルーツサンドのほか、食事にぴったりなサンドイッチがずらりと並ぶカフェ。サクッとしたロースカツが味わえるこだわりロースカツサンドは食べ応え十分。朝早くから営業しているのも嬉しい。

鹿児島県奄美市名瀬幸町8-2
TEL:0997-52-1207







奄美大島

奄美大島ってこんなところ！

奄美大島は、鹿児島本土と沖縄本島のほぼ中間の洋上に位置している。島の大部分を森で占め、山間部の自然は多様性と希少性を併せ持つ。海洋部には美しい珊瑚礁も広がり、波打ち際まで小魚が行き交いカラフルな海中世界を楽しめるため、ダイバーからも人気が高い。また、シマ唄や八月踊り、神へ祈る伝統行事も色濃く残り、今でも奄美大島独自の文化を楽しむことができる。冬は暖かく、1年を通して海の幸にも恵まれるので普段の疲れをリセットする旅にうってつけの場所だ。

MAP D 奄美海洋展示館



奄美独特の貴重な魚介類を展示している水族館。1Fと2Fを結ぶ階段脇の大きな水槽には、ウミガメはもちろん熱帯魚も多く泳ぎ、奄美大島の海の多様性を感じることができる。ウミガメのエサやりや、ハンドクラフト体験も人気。

鹿児島県奄美市名瀬大字小宿701-1
TEL:0997-55-6000

MAP E サンセット大浜





手ぶらでバーベキューが楽しめるレストランは、海が目の前という絶好のロケーション。見た目がキュートなウミガメバーガーは、自身魚がサンドされていて食べ応え充分！奄美ブルーと称される海を眺めながらゆっくり頂きたい。

鹿児島県奄美市名瀬
大字小宿701-1
TEL: 0997-54-8315

MAP F てるまに珈琲





オムライスやパスタなども食べられるカフェで、奄美群島で栽培される希少なコーヒーを提供している。焙煎も店内で行うため、新鮮で香り高い国産のコーヒーを楽しめる。おしゃれなパッケージは、お土産にもおすすめ。

鹿児島県奄美市名瀬
幸町12-22 1F
TEL:080-8388-8080

読者プレゼント

抽選で ご宿泊券（1泊2日）1グループ様にプレゼント！
※1グループ最大5名様まで/宿泊時は2部屋での宿泊となります
ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから！

http://www.jyh.or.jp/hm/
応募期間：2023年4月末日
※なお、当選発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。







つづきをダウンロード（無料）



Hostelling Magazine vol.32
まとめてダウンロード



Cover Interview …… P02

筒井 あやめ
みんなの時間とひとりの時間、
それぞれを楽しみながら──



Youth Hostel Pick up …… P08

あまみユースホステル
素の自分に戻ることができる場所



Hostelling Mgazine×地球の歩き方 … P12

伝統菓子を求めて旅をする
世界のスイーツ



FYI, from HI-Office …… P15



LiLiCoの映画で世界を旅しよう！ …… P16



おしえて！旅GIRL …… P17



松鳥むうの晴れときどき旅びより …… P18



YH-GUIDE ユースホステルガイド …… P20
中国・四国/九州・沖縄地方

発行所：一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島眞
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌の情報は2023年2月20日現在のものです。
　変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。